

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	マザーズハウスはばたき		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日	～	令和 8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	令和 8年 3月 1日	～	令和 8年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中高生向け事業所として、卒業後の進路に向けた取り組み(目標設定や課題など)が明確になっていること	卒業後の生活をイメージし、就労・余暇・体験などの柱ごとの活動やプログラムを幅広く実施している	個々の特性を考慮し、成長の度合いに応じたプログラムの構築および環境設定
2	セラピストやアドバイザーから専門的なアドバイスや提案を受けられること	助言やアドバイスに応じて、すぐに環境調整やプログラム立案し試行している	PDCAを回しながら、より専門的で実用性の高い支援を構築していく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がいの特性や度合いの幅が広がっており、集団の中で個々の現状に合った支援を提供することが難しい	特性や度合いの幅の広がりに対し、事業所の物理的な環境(スペースや部屋割り)や、スタッフのスキルが追いつかない	行ってきた試行プログラムをしっかりと整理し、構造化を完成に近づける 事業所移転により新たな試行も行き、特性や度合いに応じた支援を提供できる環境を整える
2	地域の子どもたちとの交流機会が少ない	中高生向けの事業所であることから、日常的に公園あそびなどでは交流が図りにくい	マザーズまつりや事業所イベントなどの際に学童や地域の子どもたちにも声がけし、交流の機会を作るようにする
3			